

16:00  
角館神明社参拝



全曳山が神明社に参拝、囃子と踊りを奉納します。長い石段の上にある拝殿で責任者(白タスキ)が参拝。若者達は頭を垂れてお祓いを受けます。全曳山が参拝を終えるのは深夜に及びます。



20:00  
角館神明社例祭  
「宵宮祭」  
よい みや

各曳山の参拝・奉納が続くなか、拝殿では宵宮祭が行われます。



10:00  
角館神明社例祭  
「当日祭」

例祭は神明社最大のお祭り(9月7日・8日)。本殿の扉が開かれ拝殿にて雅楽と共に修祓の儀、祝詞奉告、玉串奉典、神楽奉納など2時間に及ぶ例祭が厳かに執り行われます。曳山参拝の受付は午後4時からです。



神明社に全曳山が参拝。一列棒状に並ぶ様は圧巻。

9月7日

神明社例祭  
「当日祭」「宵宮祭」

7日のやま行事概要

午後4時、のろし花火と共に張番が開かれ、曳山が町南側にある神明社に向けて動き出します。この日は神明社参拝が全曳山の目的。一列棒状に並ぶ様は圧巻。



角館總鎮守 神明社

お祭りのみならず初詣などでも多くの参拝者が訪れる天照大神を祀る伊勢信仰神社。地域では古くから「お伊勢さん」と呼ばれ、角館總鎮守として信仰を集めています。9月7日に例祭当日祭・宵宮祭。8日に例祭神幸祭が行われます。

張  
はりばん  
番



張番は祭りにおいて絶対的な権限を持つ二方で、祭りの華である曳山のスムーズな曳き廻しを演出する調整役(裏方)でもあるのです。

また、曳山への運行指示の権限もあります。まず丁内に入るためには張番の許可が絶対条件で、曳山を境界手前まで止め、交渉員が入丁許可のお伺いを立てます。許可が下りると丁内を賑やかにしながら運行し、張番に踊りを披露し、境界を出るときもきちんとして、おいとまの挨拶をして次の丁内へ進行します。丁内運行中も状況変化やトラブルが起きた場合は張番に赴き報告や支持を仰ぐのがしきたりです。



祭典期間中、その丁内の祭典行事全てを取り仕切る権限を持つのが張番です。呼び名の由来は、角館町は藩政時代から丁内単位の強い自治意識があり、当番、門番のように祭典行事の調整や維持管理、保安等を行うために「番を張る」から張番と呼ばれるようになったようです。

町には三十余りの丁内があり、それぞれに張番があります。八日には神明社、九日は薬師堂の御神輿が全ての丁内に巡行されます。この御神輿をお迎えする最も重要な役割を担っています。内部には神明社、薬師堂の掛け軸が掲げられ、お供え物を置き、厳かに巡行をおこないます。



国指定重要無形民俗文化財  
ユネスコ無形文化遺産

「角館祭りのやま行事」

9月7日・8日・9日  
秋田県仙北市角館町

角館のお祭りの  
あらまし

軽快なおやま囃子、秋田おばこ達の艶やかな手踊り、そして勇壮なやまぶつけで名高い角館のお祭り。約四百年の伝統を誇り、平成三年に「角館祭りのやま行事」として国の重要無形民俗文化財に指定され、昨年十月にはユネスコの無形文化遺産に登録されました。



ユネスコ登録証明状

この、やま行事は角館神明社(九月七・八日)と薬師堂(九月八日・九日)のお祭りに合せて、三日間に渡り行われます。各丁内から十七台の曳山が繰り出し、七日は夕刻から神明社への参拝。八日昼は佐竹のお殿様への上覧。八日と九日は薬師堂への参拝を目的として運行されます。そして目的を終え帰途に着いた曳き廻しの折、曳山同士がハチ合わせになると通行の優先権を巡り曳山の威信をかけた「交渉」が始まります。この交渉が決裂したとき、実力行使のやまぶつけとなり、祭りは最高潮を迎えます。



九月八日  
宵宮  
法楽 午後三時



九月九日  
御輿巡行  
おん こし



神明社例祭

九月七日 当日祭・宵宮祭  
八日 御神輿渡御祭

角館總鎮守  
神明社

<http://kakunodate-shinmeisha.jp/>